

第3回 保健物理学会放射線安全文化専門研究会 議事録

日時：令和元年6月19日（水）17：30～19：00

出席者：加藤（主査）、飯塚、二ツ川、三浦、米内

議事：

1. 解析結果の確認作業
2. 今後の解析内容の検討
3. 保健物理学会研究発表会・企画セッションに向けての準備について
4. その他

1. 解析結果の確認作業について

小芝氏の解析結果の確認作業を行った。特に下記の内容について議論した。

- 1) 前回の研究会以降に回収されたアンケートを追加して解析したが、結果に大きな変動は見られなかった。なお、以下の傾向がより顕著に確認できた。

①放射線安全活動へのトップ及びリーダーの関わりが望まれているにもかかわらず、実際には関わっていないと考えられている。

②放射線安全活動上の意思決定において障害となっているもののうち、作業者の意識の改善は可能と考えられており、予算のかかる部分やトップの低い意識は改善が難しいと考えられている。

- 2) 放射線安全活動上のトップ及びリーダーは誰であると考えているかについて、主任者と主任者以外の者との認識の違いを試験的にクロス解析したところ、以下の傾向が確認できた。

①主任者及び主任者以外の者は共に、事業所長・部門長をトップ、事業所長・主任者をリーダーと考えている。

②主任者をトップ、上司をリーダーと考える割合は、主任者よりも主任者以外の者で高いことが分かった。

以上より、主任者以外の者は主任者自身の意識よりも主任者の立場を高く位置付けているものと考えられた。

2. 今後の解析内容の検討について

1) さらなる情報収集を目指したいが、大幅な調査数の増加は期待できないこと、また今回の 95 件を加えても前回の解析結果と比べて大きな変化がないこと、および主たる事業所形態（民間、医療、教育、研究）の占める割合が 20%前後で均一であり、現有データの解析でも十分に有意義な成果が得られることが見込まれるため、今後は解析作業に専念することとした。

2) 1-2) より、主任者とそれ以外の者との意識の違いを、他の質問に関しても分析することで、事業所での放射線安全文化醸成において注視すべきポイントを見出せる可能性があると考えられた。そこで同様の解析を、全ての質問について行うこととした。

さらに事業所の状況（形態、規模）や立場（年齢）による意識の違いが見出せる可能性もあることを踏まえ、以下の分類とクロスさせた解析を試みることにした。

①事業所の形態(民間、病院、教育、研究)

②規模(100人以上、100人以下等)

③年齢(30代、40代、50代、60代等)

3) 上記のクロス解析を小芝氏に依頼し、保健物理学会の発表申し込み期限日の 8 月末までに本調査の主要な分析を終了することとした。

3. 保健物理学会研究発表会・企画セッションに向けての準備について

1) 本研究会の活動報告の場として 1 時間程度のセッションを企画する必要がある（12 月開催）。内容として、国内の安全文化醸成の状況、海外の同状況およびデータ解析結果の 3 項目で発表をすることとした。

2) 国内の安全文化醸成の状況については二ツ川氏より、データ解析結果については加藤主査より各々報告することとなった。海外の安全文化醸成の状況報告については東京大学の飯本先生にお願いできないか打診することとなった。

4. その他

1) 今年度が最終活動年度になるため、次年度には活動報告書を学会に提出しなければならない。活動成果がまとまり次第、執筆の分担について検討し、作成にとりかかることとした。

2) 次回の研究会は、東京大学 浅野キャンパス 工学部 12 号館 2 階 222 号室にて、9 月 9 日～20 日の間に開催することとした。

以上